

項目	4 リニア中央新幹線工事への対応について
答弁者	くらし・環境部長
質問要旨	<p>本県においてリニア工事の実施が予定されている南アルプスは、ユネスコエコパークに登録された、希少で貴重な自然環境のある地域である。</p> <p>しかし、リニア工事は、この真下に約 10.7km の本坑をはじめ、6本のトンネルを掘削する計画であり、生物多様性への影響が大きいことから、保全措置に向けた一層の議論、検討がなされるべきである。</p> <p>J R 東海が現地調査は難しいとしていた蛇抜沢を踏査した映像を見ると、現地でしか確認できない断層や湧水など、多くの情報があり、現地での調査の必要性を感じた。</p> <p>そこで、南アルプスの生物多様性を保全し、希少で貴重な動植物を守るため、県としてどのように対応するのか伺う。</p> <p>また、J R 東海は、高速長尺先進ボーリングの実施に際し、県境付近の断層で湧水圧試験を行い、透水係数を調べることであった。</p> <p>トンネル掘削により山梨側へ流出する地下水量や地下水位低下の予測に使われた断層の透水係数には、山梨県内での湧水圧試験により求められた透水係数が使用されている。</p> <p>しかし、南アルプスは複雑な地質構造であることから、この数値を用いた予測の不確実性がたびたび指摘されている。このため、今回の湧水圧試験は、これまでの予測の見直しや、田代ダム取水抑制案の再検討が必要になるかもしれない重要な調査ではないかと考える。</p> <p>適切な透水係数を用いることで、トンネル掘削の影響をより確実に想定でき、突発湧水による上流の水量減少が生態系に及ぼす影響の予測精度も向上すると思う。</p> <p>そこで、今回 J R 東海が実施した湧水圧試験から得られる透水係数の取り扱いと今後の湧水圧試験の実施の考え方について伺う。</p>

<答弁内容>

リニア中央新幹線工事への対応についてお答えいたします。

南アルプスには、世界の南限とされる動植物が生息・生育し、守るべき希少な生態系が存在しております。この南アルプスの生物多様性を保全するため、県専門部会における対話の中で、想定される自然環境の損失に対し、最大限の回避・低減措置の実施を J R 東海に求めております。その上で、なお自然環境の損失が残る場合には、同等以上の代償措置を、事業者の責務として実施していただくこととしております。

また、回避・低減措置の実施に当たっては、その効果が不確実性があることから、現地調査等による現状把握と評価、フィードバックを繰り返しながら、状況に合わせて追加の対策を講じる「順応的管理」の実施も求めており、具体的な手順等を確認してまいります。リニア中央新幹線の整備と守るべき希少な生態系が存在する南アルプスの自然環境の保全との両立に向け、引き続き、J R 東海との対話を進めてまいります。

す。

今回、J R 東海が実施した断層付近での湧水圧試験から求められる透水係数につきましては、議員御指摘のとおり、これまでの予測を検証する上で、大変重要であると考えております。今後、県専門部会において、透水係数を含むボーリング調査の結果の取扱いを議論し、必要と判断された場合には、沢の流量減少の予測の見直しや更なる湧水圧試験の実施を J R 東海に求めてまいります。